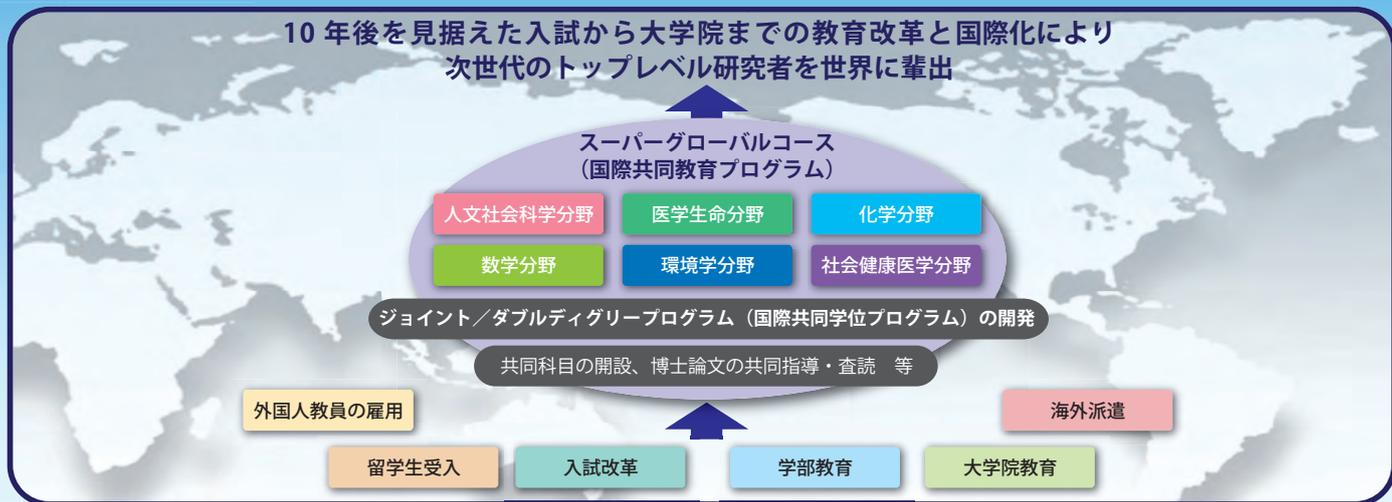




構想の概要・目的

本学が十分な国際競争力を持つ分野を擁する大学院に、各分野の世界トップレベル大学と連携して実施する国際共同教育プログラム「スーパーグローバルコース」を設置します。各分野のスーパーグローバルコースにおいては、パートナー大学との共同科目の開設、博士論文の共同指導・査読等の取組を行うとともに、国際共同学位プログラム「ジョイント/ダブルディグリープログラム」の開発を進めます。これによる大学院教育の国際化と、入試改革、外国人教員の雇用促進、留学生の受入れおよび学生の海外派遣の増加、英語による授業の増加等、大学教育の様々な側面の国際化との相乗効果により、本学の研究・教育力の更なる強化を図り、世界で活躍する次世代のトップレベル研究者を輩出します。

10年後を見据えた入試から大学院までの教育改革と国際化により
次世代のトップレベル研究者を世界に輩出



人文社会科学分野

人文社会科学分野では、“持続可能性”と“文化越境性”をキーワードに経済学・文学・農学の3研究科が協力し、多様な国際教育プログラムを実施しています。各部署が持つ世界各地の大学との連携に加えユニットの総合力を活かして、ジョイントディグリープログラムによる国際連携文化越境専攻（ハイデルベルク大学と連携）を文学研究科に、同じく国際連携グローバル経済・地域創造専攻（グラスゴー大学・パルセロナ大学と連携）を経済学研究科に設置しました。その他にも、教育研究交流のハブ拠点となることを目指し、これまでに構築したダブルディグリープログラムやコチュテルに留まらず、欧州・アジアの大学や機関との研究交流、第一線の研究者による指導や学生相互派遣等を通じ、国際競争力を備えた次世代の人材育成を推進しています。



医学生命分野

医学生命分野では、ノーベル医学生理学賞、ロベルト・コッホ賞、アルバート・ラスカー賞といった世界的に著名な賞を受賞者を数多く輩出してきました。大学院教育の徹底した国際化を断行するため、ゲノム医学領域を中心に、国際的に卓越した教育研究を行っている海外パートナー大学・研究機関と、互いの特徴・強みを活かした連携体制の構築に重点的に取り組んでいます。マギル大学とのジョイント・ディグリープログラムの開設、パスツール研究所との国際共同研究ユニットの設置、ボルドー大学との国際共同研究の実施といった世界をリードする国際教育研究拠点の形成を通して、世界トップレベルの研究者及び学生交流を促進し、国際競争力のある人材を育成するとともに、国際教育ネットワーク構築モデルを示すことで、京都大学の世界的評価を高めることを目指します。



化学分野

化学分野を構成する工学研究科化学系6専攻は分子レベルの理論的解析から地球規模の環境、エネルギー問題の対応までを含む、非常に幅広い教育・研究を実施する世界的に見ても最大規模の化学系大学院組織であり、ノーベル化学賞、フンボルト賞をはじめとする世界的な賞を数多く受賞しています。本分野では当化学分野の持つ特徴を最大限に生かし、マサチューセッツ工科大学等の海外連携大学教員による集中講義形式の科目を含め、講義の多く（博士後期課程においてはすべて）を英語で開講する教育プログラムを設置して国際水準の教育を確立し、大学院生の俯瞰力の強化と国際化を図るとともに、質の良い留学生数の増加も目指します。



数学分野

数学分野は、フィールズ賞をはじめとする世界的に著名な賞を数多く受賞し数理学の広範な分野をカバーする世界最高水準の研究者集団を擁し、時代を先導する研究を数多く行ってきました。大学院生は、主指導教員であるこれらの本学教員に加えて、第一線の外国人研究者を副指導教員とした共同研究指導を受けることにより、数学の高い研究能力と十分な語学力を備えて、国際的な環境の中で博士論文の研究を行うことができます。平成27年度から令和2年度までに32名の大学院生が海外の研究者を副指導教員として博士の学位を取得しました。また国際的な研究ネットワークを構築し、学位論文の成果が国際的に周知されることで、国際的な活躍の場が広がります。



環境学分野

地球環境学堂/学舎・農学研究科からなる環境学分野は、自然科学、社会科学、人文科学など多分野から構成され、環境問題に資する学際的・実践的な教育・研究を行っています。教育においては、Rattan Lal氏 (The Ohio State University)、Denis Petitprez氏 (Lille University) など著名な研究者を招へいし、環境学分野における先端事例を提供するとともに、マヒドン大学、IPB大学（ボゴール農業大学）、清華大学とダブルディグリープログラムを実施しています。加えて、提携大学における国際インターン研修の実施など、教育プログラムの国際化を推進しています。研究においても、日本学術振興会賞（勝見武）、日経地球環境技術賞・優秀賞（真常仁志ら）、日本農学賞（近藤直）を受賞するなど、新たな環境技術が評価されています。



社会健康医学分野

社会健康医学分野は、21世紀のグローバルヘルスを先導するワールドプレミアム公衆衛生大学院の創成を目標として、専攻内に国際化推進室を設置し、チュロンコン大学、マラヤ大学、マヒドン大学、国立台湾大学等のASEAN、東アジア、欧米の主要大学と連携しつつ、教育プログラムの学際化・国際化、学位プログラムの国際化を強力に推進すると共に、若手研究者に焦点化した国際交流を推進しています。これまでに、必修科目、一部選択科目、及びHPを英語化し、英語による教育・広報体制を前進させると共に、台湾、ASEAN、英国の主要公衆衛生系大学院から若手研究者を招聘して国際会議を開催し、併せて、国際共同研究の推進を図るため、連携海外大学との間で、活発な学生、教員の交流（派遣・招聘）を行いました。

